

平成25年度事業報告

シルバー事業の運営を取り巻く環境は、事業運営に係る国の補助金の削減や、労働局の適正就業の指導により企業が直雇いの切り替えや、昨年夏の豪雨災害等により受注や契約金の減額となりました。

とりわけ企業の直雇いは継続就業の柱となっていた箇所が多く、センターとしては受託事業の大幅減に加え会員数の減少と、適正就業の的確な履行は大きな影響でありました。

このような状況の下、平成25年度当初予算見込み通り、契約金額は予算額に達したものの、萩広域全体としては受託事業の減少に歯止めはかけられませんでした。ただ、一部派遣事業への切り替えにより、派遣契約できたことは明るい展望でもありました。

前年比において金額にして3千180万円減額の2億7千683万円に留まりました。大きな要因は継続就業が直雇いになったことと、豪雨災害により就業が困難であったことです。

受託事業は受注先別にみると、公共からの発注が12.3%（1,250万円）減額、民間企業からの発注が36.3%（5,673万円）減額、一般家庭からの受注が3%（149万円）減額、独自事業は37.2%（5万円）減額、派遣事業は3千897万円の実績となりました。

受託事業の職群別割合は、一般作業群が最も多く全体の41.8%を占め、次に管理群が38.9%、技能群が13%、サービス群が3.9%、折衝外交群が2%、技術群が0.3%、事務整理群が0.1%となりました。

会員の状況は、65歳以上の申し込み者が多く、これは年金支給制度に関するものと思われ伸び悩みました。更に直雇いによる退会や、高年齢による自然退会と併せ、年度末の会員数は548人になり、受託事業と派遣事業を併せた就業実人員は514人、就業率は93.8%となりました。

公益社団法人の制度に移行したために、適正な就業の遵守から就業の調整を行ったことが、萩広域全体の減額となった要因と思われます。